

科目名	科目担当代表教員	ページ数
食生活論	荒井 三津子	2
生活と社会環境	今泉 博文	7
日本国憲法	池田 杏奈	12
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	17
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	21
統計の基礎	武田 裕康	25
英語Ⅱ	Walzem Allen George	30
韓国語Ⅱ	金 京室	35
中国語Ⅱ	野間 晃	40
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	45
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	50
運動学Ⅰ	高田 雄一	55
解剖学Ⅱ	池野 秀則	60
生理学Ⅲ	木村 一志	65
リハビリテーション医学	未定	70
精神医学Ⅰ	瀧山 晃弘	74
病理学	瀧山 晃弘	79
基礎解剖学実習	池野 秀則	84
基礎解剖学実習	池野 秀則	89
理学療法評価学Ⅰ	佐藤 明紀	94
臨床実習Ⅰ(見学実習)	高田 雄一	98

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係が築くことができる」と、作業療法学科でのディプロマ・ポリシーとして、「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。「リハビリテーション栄養学」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							
○ 医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。 ○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。 ○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。 ○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。							
授業の方法							
①教科書を利用し、確実に講義の内容を把握できるよう指導する。 ②必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。 ③内容に合わせて、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。 ④中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜「食」の学び方＞「食」は生理的、文化人類学的、社会的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	科書全体の構成を把握し、「食べる」ことを学ぶ意義を考察する。90分程度。
担当教員			
第2回	＜食べるヒト・食べるってなに？生きるってなに？＞ 私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	教科書P2～8を読んでくること。90分程度。	講義で学んだ「食べる理由」について整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	教科書9～14まで読んでくること。90分程度。	消化の仕組みと腸内環境について理解する。90分程度。
担当教員			
第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	教科書P17～26まで読んでくる。90分程度。	ヒトが痩せたい理由とダイエットの問題点について整理しておく。90分程度。
担当教員			

第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	前回学んだ『食べない理由』を復習し、P28～30、P72～73を読んてくる。90分程度。	「食のタブー」とベジタリアン、フードファディズムについて説明できるようにしておく。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	教科書P41～51まで読んでおくこと。90分程度。	作法が必要な意義について考察しておくこと。90分程度。
担当教員			
第7回	＜ヒトから人間へ・食べるモノの変遷＞ 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	教科書P54～61まで読んでおくこと。90分程度。	日本の食の歴史を整理しておくこと。餌と食事の違いを説明できること。90分程度。
担当教員			
第8回	＜おいしさとはなにか＞ 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	教科書のP72～80まで読んでおくこと。90分程度。	「おいしい」とはどのようなことか整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第9回	＜ヒトはなぜ食べるのか＞ 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前回までの講義内容を復習しておくこと。90分程度。	中間の総まとめの講義内容を復習しておくこと。90分程度。
担当教員			
第10回	＜「食」の未来＞ 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	教科書p84～96まで読んでおくこと。90分程度。	養殖や染色体、遺伝子組み換えなどについて整理しておくこと。90分程度。
担当教員			

第11回	＜食事空間を学ぶ＞ 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	教科書p98～105まで読んでおくこと。90分程度。	台所と調理の進化を整理し、これからの食事について考察すること。90分程度。
担当教員			
第12回	＜「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告＞ 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	教科書p107～p115まで読んでおくこと。90分程度。	周囲にある食関連の広告を調査整理すること。90分程度。
担当教員			
第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	教科書p81～83、p124～p132を読んでおくこと。90分程度。	自分の周囲の食卓について調査してみること。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	前回の講義内容を整理しておくこと。90分程度。	食卓の演出について具体的なテクニックを整理する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。	年中行事に食べるものについて調査しておくこと。90分程度。	教科書全体の重要事項をまとめておくこと。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト 2回	

その他	30	調査レポートの評価
教科書		
食学入門ー食べるヒト・食べるモノ・食べるコトー / 荒井三津子 / 光生館		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
私語厳禁。 毎回必ず教科書を持参すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	1128
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	今泉 博文、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。（思考・判断・表現）							
授業の概要							
現代日本においては、様々な疾患や障害を持つ人々が地域社会で生活している。この現状を踏まえ、疾患や障害といった背景を持ちながらも快適な生活を送るためにはどのような生活環境の整備が求められているのかについて、生活環境が生活の質に大きく影響する疾患や障害の特徴を理解したうえで考察する。							
到達目標							
① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。 ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。 ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。							
授業の方法							
パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。							
ICT活用							
授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

今泉博文:国立病院機構施設・ナショナルセンターでの施設にて職場管理責任者として勤務した経験を活かして医療保険制度、介護保険制度および筋ジストロフィー、重症心身障害児(者)、精神疾患患者等の障害者の生活と社会環境について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む) (今泉)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第2回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する(金子)	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める(今泉)	高齢者が抱えるリスクについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第4回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める(今泉)	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		

第5回	障害者の生活と社会環境① 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める(金子)	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	障害者の生活と社会環境② 脳卒中患者の生活環境の整備について考える(金子)	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第7回	障害者の生活と社会環境③ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える(今泉)	筋ジストロフィー疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第8回	障害者の生活と社会環境④ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考えるパート2(今泉)	前回の講義で提示された疾患の患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第9回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める(金子)	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第10回	障害者の生活と社会環境⑥ パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える(金子)	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第11回	障害者の生活と社会環境⑦ 重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める(今泉)	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第12回	障害者の生活と社会環境⑧ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える(今泉)	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
第13回	障害者の生活と社会環境⑨ 脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める(金子)	脊髄損傷とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑩ 脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える(金子)	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。(今泉)	1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	今泉 博文		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。	

その他	0	
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		
特に指定しない		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
人間社会のルールの1つである日本国憲法を学ぶことにより、幅広く教養を身につける科目である。							
授業の概要							
本科目では、日本国憲法が保障する基本的人権について概説する。その基礎として、「憲法」という語が意味する具体的内容や、人権が形成されてきた歴史といった総論的論点を学んだ上で、自由権、社会権等の基本的人権が保障されることの重要性を理解する。							
到達目標							
1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。 2. 様々な基本的人権について概要を述べることができる。 3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。							
授業の方法							
パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。 各講義中に毎回コメントシート(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)を提出する。 確認テストを時間内に行う(全15回)。提出方法についてはGoogle フォームを併用できるようにする予定である。							
ICT活用							
Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要について学ぶ。	特になし。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるのかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei?——国会(2)」「Theme18 首相の選び方——内閣」「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(120分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交?——天皇」「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を!——地方自治」「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業中で提出するコメントシート(全15回)により評価する。	

その他	0	なし。
教科書		
初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（2020年、有斐閣）		
参考文献		
講義中に適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	1167
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。							
授業の概要							
表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。							
到達目標							
インターネットから目的とするデータを取得することができる。 データを分析できる形に整えることができる。 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。 データの特徴を説明することができる。 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。							
授業の方法							
パソコンを用いた演習を行う(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データの取得】e-Stat,気象庁のWebサイトを利用してインターネットからデータを取得する実践を行う。 【データを扱う方法】取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	教科書1のp30-p31, p122-p133を読み、教科書2の第6講の2を復習しておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	教科書1のp140-p143, p146-p151, p158-p161を読み、教科書2の第6講の4を復習しておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。また、Python言語を用いて、プログラミングの基本である順次処理、条件分岐、反復処理を体験する。	教科書2の第11講の4～7を読んでもおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	教科書2の第12講の3～4を読んでもおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	教科書1のp64-p77を読み、教科書2の第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】プログラミング言語であるPython用のscikit-learnというライブラリーを用いて機械学習の様々な手法(データの分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどおよびデータのクラスタリングを行うk-means法)の特徴を理解し、それらの実装を体験する。 【機械学習 教師なし学習】Python用のscikit-learnというライブラリーを用いて機械学習によるクラスタリングを体験する。また、主成分分析の実装を体験する。	教科書2の第14講の5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	教科書2の第5講の4のp76-p77を復習しておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教科書2の第7講を読んでおく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

1. はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス／ノア出版(前期「情報処理リテラシー」の教科書)
2. はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社(後期「数理・データサイエンス・AI入門」の教科書)

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。
教科書は2冊とも他の教科でも使用しているものなので、重複して購入しないように注意してください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	1166
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							
数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。 数理・データサイエンス・AIを活用するあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。							
授業の方法							
パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。掲示板アプリを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データ・AI活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。	教科書の第1講の1、第1講の2、第2講、第3講の1を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データを説明する方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数のデータの間の関係を調べるための散布図からわかること、相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	教科書の第6講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【AIの手法1】AIに含まれる分析技術を理解する。機械学習の学習方式の違い(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰を行う回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	教科書の第5講の4のp74-p75, 第14講の1, 第14講の2, 第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【AIの手法2】教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。教師なし学習の手法のうちクラスタリングについて学ぶ。	教科書の第14講の3のp216, 第14講の4のp76-p77を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【AIの手法3】 教師なし機械学習の手法のうちアソシエーション分析(＝連関分析)について学ぶ。 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。 ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教科書の第14講の3のp217,第14講の7のp233,第5講の4のp226-p227を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 実際の事例を紹介しながら、データの有用性と人の価値観を組み合わせたアプローチについて学ぶ。一般的なデータサイエンスのアプローチを通して業務改善を行った事例や、それによる変化などを紹介する。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、FOOD & LIFE COMPANIES(スシロー)での事例を元に、DWH『SnowFlake』でのデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】 情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1 ELSI、AIの公平性・平等性・透明性・説明可能性】 すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI(Ethical:倫理的、Legal:法的、Social Issues:社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性とデータバイアス、AIの透明性・説明可能性などについて学ぶ。	教科書の第7講の2のp99,第8講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2 AIに関する社会的課題】 AIに関する様々な社会的課題(AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	教科書の第7講を読んでおく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
社会で必要となるスキルのひとつである、データ解析を中心とした科学的分析力を修得する科目である。 「統計と社会調査法」(健康、理学、作業)、「医療統計学」(理学)、「理学療法研究」(理学)と連携している教養科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							
1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。 2. 統計的推定の考え方を説明することができる。 3. 統計的検定の考え方を説明することができる。 4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。 5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。 フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～p136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第5回	【推測統計③】統計的検定の基本の手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り（第1種の過誤、第2種の過誤）を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)	

その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第4版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		
なし。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
This is a basic to midlevel English Skills class. Students will practice, reinforce, and build on general English skills and vocabulary learned in “English I,” with a focus on spoken, daily life English.							
授業の概要							
本科目では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行う。さらに、それらを用いて英語で自己表現することに慣れることを目的とする。							
到達目標							
Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)							
授業の方法							
This is a lecture class where students will listen to the teacher’s instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.							
ICT活用							
If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class intro, syllabus, first grammar pattern	Go over syllabus, semester 1 materials if needed (90 minutes)	Preview Unit 7, Part I, p60-64 (90 Min)
担当教員			
第2回	Unit 7 Part I p60-64: I'd love that job. Asking and answering questions about job skills. 20 questions for jobs game. Questions about job related stress and injuries.	Review unit 7 vocabulary and concepts (p60-64) (90minutes)	Please read and prepare Unit 7 Part II, p65-67 (90 Min)
担当教員			
第3回	Unit 7 Part II p65-67 : I'd love that job. Asking and answering questions about job skills. 20 questions for jobs game. Questions about job related stress and injuries.	Review Unit 7, vocabulary and grammar patterns	Preview Unit 8, Part I, p6-72
担当教員			
第4回	. Unit 8 Part I, p68-72: Talking about opinions and making plans. Describing people and activities in present progressive tense.	Review unit 8 Part I, p68-72, vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit Part II, p73-75 (90 Min)
担当教員			

第5回	Unit 8 Part II, p73-75: Talking about opinions and making plans. Describing people and activities in present progressive tense.	Review unit 8 part II (p73-75) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 9, Part I, p76-80 (90 Min)
担当教員			
第6回	Unit 9 Part I p76-80 : What are you going to do? Future plans, including patient scheduling.	Review unit 9, p76-80 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 9 Part II, p81-83 (90 Min)
担当教員			
第7回	Unit 9 Part II p81-83: What are you going to do? Future plans, including patient scheduling.	Prepare for midterm exam!! (as much time as you need)	Review vocab, grammar, concepts from Units 6-9 (as long as needed)
担当教員			
第8回	Midterm exam	Go over exam materials	Prepare for Unit 10, Part I, p.84-88
担当教員			
第9回	Unit 10 Part I, p84-88 : Using intensives and intensifier, comparing things (-er, est, etc.)	Review unit 10 p84-88 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 10 part II, p89-91 (90 Min)
担当教員			
第10回	Unit 10 part II, p89-91 : Using intensives and intensifier, comparing things (-er, est, etc.)	Review unit 10 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 11, Part I, p92-96 (90 Min)
担当教員			

第11回	Unit 11, Part I, p92-96 : Giving and following instructions. Telling a patient about exercise, therapy, or other activities.	Review unit 11 Part I, p92-96, vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 11, Part II, p97-99 (90 Min)
担当教員			
第12回	Unit 11, Part II, p97-99 : Giving and following instructions. Telling a patient about exercise, therapy, or other activities.	Review unit 11 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 12, Part I, p100-104 (90 Min)
担当教員			
第13回	Unit 12, Part I, p100-104: Small talk about interests and activities, giving and receiving professional opinions.	Review unit 12 Part I (p100-104) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 12, Part II, p105-107 (90 Min)
担当教員			
第14回	Unit 12, Part II, p105-107 : Small talk about interests and activities, giving and receiving professional opinions.	Review Units 10-12 thoroughly! Study notes given by teacher during classes, and especially during week 14! (2 or more hours!)	Prepare for final exam !!
担当教員			
第15回	Final Exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor Walzem
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30	

その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson 2018		
参考文献		
Handouts will be given in class		
履修条件・留意事項等		
Not applicable		
備考欄		
Please bring textbook, pen or pencil, and paper to every class		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	1189
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
初年度教育の一環として、これから専門領域を学習する心構えを養うための科目である。							
授業の概要							
韓国語を学ぶ上で必要な、基礎的な文法や発音などを理解した上で、簡単な会話スキルを習得する。							
到達目標							
・韓国語の基礎的な読み・書きができる。 ・韓国語で簡単な会話ができる。							
授業の方法							
・基本的には、パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。 ・小テストを行い、理解度を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・第1～11課の復習 ・第1～11課の復習を行う	第1～11課の復習しておくこと (90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第12課 なに学科ですか一所属と学年 ・疑問詞を使うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p52-55を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p52-55を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第13課 僕は音楽が好きです ・好みの表現ができる ・助詞の表現ができる	教科書p56-59を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p56-59を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	第14課 未来さんの携帯じゃありませんか ・指示す言葉や所有・所属の表現ができる ・否定文が理解できる	教科書p60-63を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p60-63を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第5回	第15課 彼女いますか？ ・存在表現ができる ・丁寧語・助詞の表現ができる	教科書p64-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p64-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	第16課 満では19です ・年齢を言うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p68-73を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p68-73を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	第12-16課 まとめと復習 ・小テスト①	教科書p52-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p52-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第17課 K-POPに大いに興味があります ・流音化・2重パッチムが理解できる ・助詞が表現できる	教科書p74-79を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-79を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第18課 大学で習っています① ・否定表現ができる ・助詞が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第10回	第18課 大学で習っています② ・否定表現ができる ・助詞が表現できる ・逆接の接続語尾が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第11回	第19課 先週末何をしましたか ・過去形が理解できる ・行き来の目的を表す表現ができる	教科書p88-93を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p88-93を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第20課 ソウルに旅行しようと思っています ・予定・つमりの表現ができる ・希望表現ができる	教科書p94-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p94-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第13回	第17-20課 復習およびまとめ 小テスト②	教科書p74-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	韓国に行くならどこに行く？そこで何を食べる？ グループ学習 ・韓国の旅行先についてグループで話し合い、予定を計画する ・計画を発表する	韓国の地理について予習する(90分)	講義の資料や発表資料を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1-20課のまとめと復習 小テスト③	教科書p1-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-99を復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)	

その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		
指定なし		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語Ⅱ				ナンバリング	1179
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	野間 晃						
授業の位置づけ							
前期の入門中国語を前提として、中国語がどのような言語なのかを更に深くつかめるようにする。							
授業の概要							
この授業では、前期に引き続き中国語の発音をマスターすることと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。							
到達目標							
中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。							
授業の方法							
授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。授業中に取ったノートの提出を、毎回授業終了時に求める。							
ICT活用							
中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

(なし)			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業開始時に配られるノートを兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員			
第2回	前期の内容(発音・文法・語彙)の総復習。 後期の授業を始めるにあたり、必要な知識が分かるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	第11課 1. “了” 2. “了”の位置 3. “剛”があるとき: “了”は付けない “了”と“了”の位置と“剛”があるとき“了”は付けないことが理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	第12課 1. 変化を表す“了” 2. “過” 3. “一点儿也～” 4. “yihuir”の発音 変化を表す“了”と“過”と“一点儿也～”と“yihuir”の発音について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	第13課 1. “在”＋動詞＋(“呢”) 2. 過去のことでも“了”がつかないとき “在”＋動詞＋(“呢”)と過去のことでも“了”がつかないとき が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第14課 1. 結果補語 2. 程度補語 3. “別～了” 結果補語と程度補語と“別～了”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	第15課 1. 動詞＋“着” 2. 存現文 3. “又～又～” 動詞＋“着”と存現文と“又～又～”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	第16課 1. 一致と類似を表す表現 2. “是～的” 3. “会～(的)” 4. “原来” 一致と類似を表す表現と“是～的”と“会～(的)”と“原来”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第17課 1. 方向動詞 2. 方向補語 3. “把” 4. “應該” 方向動詞と方向補語と“把”と“應該”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	第18課 1. 可能補語 2. “雖然～但是～” 可能補語と“雖然～但是～”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	第19課 1. 様態補語 様態補語について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第20課 1. 受け身 2. “再”と“又” 受け身と“再”と“又”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	第21課 1. 使役 2. “讓我們～”“讓我～” 3. 同一の疑問詞の呼応 4. 疑問詞＋“都” 使役と“讓我們～”“讓我～”と同一の疑問詞の呼応と疑問詞＋“都”について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	本文会話一覧 この教科書で学んだ会話練習の復習 会話で必要な表現について理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 今学期の授業で学んだ内容の大綱が理解できるようになる。	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業中に書き込んで終了後に提出するプリントを総合評価する。	

その他	10	授業態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
複数の教科書を使用するが、受講者に購入は求めない。		
参考文献		
授業中に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
遅刻は減点の対象になるので注意すること。 前期の中国語Ⅰを履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。		
備考欄		
なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ（1組）				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第7回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(3) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(6) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目が変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ（2組）				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第7回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(3) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンピプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(6) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる。 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目が変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学 I				ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と関係がある科目である。解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、人体の運動・動作における関節運動機能を学ぶ。特に運動器(筋骨格系)の機能解剖を中心に身体運動の特徴を理解する。また、姿勢や動作の分析および解析の基礎を学び、理学療法学、作業療法学の基礎を理解する。							
授業の概要							
運動学は身体運動を研究する学問であり、人間の運動・動作を理解するために必要不可欠なものである。ここでは、運動器の構造・機能と運動との相互関係、身体運動を分析するために必要な力学原理、姿勢や歩行の運動学的特性、運動学習の観点からそれぞれ解説し、身体運動を理解するための基礎知識を身につけることを目的とする。							
到達目標							
・力学の基礎、運動器の基本構造と機能について理解できる ・身体各関節の構造と機能について理解できる ・姿勢、歩行について理解できる							
授業の方法							
パワーポイントもしくは教科書、その両方を用いた講義形式にて説明する。 各回にテストを実施して理解度を確認する。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題を提出する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高田、金子ともに整形外科領域のリハビリテーションに従事しており、その経験を踏まえて授業を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

1～14回に確認テストを実施して理解度を確認した後に解説を行う。
15回目には1～14回の内容についてテストを行い、それまでに学んだ内容について知識の整理と理解を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 運動器の基本構造と機能① 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	運動器の基本構造と機能② 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P43-62を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	股関節の運動学について学習する	運動学P55-62, 運動学(羊土社) P118-124を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	膝関節の運動学について学習する	運動学P63-72, 運動学(羊土社) P125-134を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第5回	足関節と足部の運動学について学習する	運動学P73-82, 運動学(羊土社)P135-147を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	脊柱・体幹の運動学① 頸椎・胸椎・胸郭について学習する	運動学P83-90, 運動学(羊土社)P95-110を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	脊柱・体幹の運動学② 腰椎・骨盤 顔面および頭部の運動学について学習する	運動学P91-99, 運動学(羊土社)P111-117を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	生体力学 力と運動について学習する	運動学P2-10, 運動学(羊土社)P10-26を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	姿勢と姿勢制御について学習する	運動学P111-119, 運動学(羊土社)P148-152を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	歩行 正常歩行、異常歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土社)P153-165を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	肩複合体の運動学について学習する	運動学P21-32, 運動学(羊土社)P63-70を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	肘関節・前腕の運動学について学習する	運動学P33-42, 基運動学(羊土社)P71-75を読んで予習しておくこと	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第13回	手関節・手指関節の運動学について学習する①	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	手関節・手指関節の運動学について学習する②	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	全体のまとめとテスト	1-14回までの内容を整理しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1-14回に実施する確認テスト、出席態度等(30%) 15回に実施するテスト:6割以上合格(70%)	

その他	0	なし
教科書		
運動学/石川朗、種村留美/株式会社 中山書店 運動学第2版 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)/山崎敦 /羊土社		
参考文献		
基礎運動学第6版/中村隆一著/医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		
解剖学や生理学との関連で理解を深めること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅱ				ナンバリング	2203
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	池野 秀則						
授業の位置づけ							
理学療法学科のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」ことに特に関係のある科目である。 作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。（知識・技能）」ことに特に関係がある科目である。 解剖学Ⅰでは筋骨格系と神経系を中心に扱い、続く解剖学Ⅱでは内臓について扱う。生理学とともに身体の構造と機能を理解することを目的とし、内科学・病理学などを学ぶ際の基礎となる。							
授業の概要							
人体の基本構造を細胞・組織・器官・器官系(循環器系, 消化器系, 呼吸器系, 泌尿器系, 生殖器系, 内分泌系)レベルで系統的に学ぶ。また、構造に基づいた機能との関連を学び、理学・作業療法士としての人体の基本構造とその機能、ならびに器官の相互作用を理解する。							
到達目標							
1. 細胞・組織の構造と機能を説明できる。 2. 循環器系の構造と機能を説明できる。 3. 消化器系, 呼吸器系の構造と機能を説明できる。 4. 泌尿器系, 生殖器の構造と機能を説明できる。 5. 内分泌系, 人体発生の基礎について説明できる。							
授業の方法							
教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。 適宜パワーポイントを用いる。 毎回講義の初めに確認小テストを行う。							
ICT活用							
適宜Webにて学習の補助教材の配布などを予定。							
実務経験のある教員の教育内容							

老健施設併設総合病院勤務等の経験から理学療法及び作業療法の臨床に即した情報を加えながら講義を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義開始時に準備学習欄に記載された内容の小テストを行い、適宜フィードバックとして解説を行う。
この小テストは出席票を兼ねる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	循環器系1 血液血管の役割 胸大動脈・腹大動脈・頸動脈について学ぶ 上腕動脈～手の動脈について学ぶ	第IV章循環器系の血液・血管系の役割、血管の構造についてあらかじめよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、とくに血液・血管の役割について確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	循環器系2 腹腔動脈・上腸間膜動脈・下腸間膜動脈について学ぶ 骨盤の動脈・腹壁動脈について学ぶ 大腿～足の動脈について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	循環器系3 静脈系 上大静脈・上肢の静脈・皮静脈について学ぶ 肝門脈・奇静脈・下肢の静脈について学ぶ リンパ系 一次リンパ組織・二次リンパ組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第4回	循環器系4 心臓の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		

第5回	呼吸器系 気管・気管支・気道の組織について学ぶ 肺の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	消化器系1 消化器系の機能と支配神経について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第7回	消化器系2 口腔について学ぶ 唾液腺・咽頭・リンパ性咽頭輪について学ぶ 食道について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	消化器系3 胃・小腸(十二指腸)について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	消化器系4 小腸(空腸・回腸)・大腸について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第10回	消化器系5 肝臓・胆嚢・膵臓について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		

第11回	泌尿器系1 腎臓・尿管について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第12回	泌尿器系2 膀胱・尿道について学ぶ 生殖器系 男女の生殖器について学ぶ 乳房と乳腺について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第13回	細胞 核・細胞骨格・器官・組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	内分泌系 下垂体(前葉・後葉)・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎について学ぶ 人体発生の基礎について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	まとめの試験 これまで学んだ内容について確認を行う	これまで学んだ授業内容についてまとめ、復習しておくこと(90分)	わからなかった試験問題について調べ、復習しておくこと(90分)
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認小テスト10%まとめの試験90%で60%以上を単位取得とする	

その他	0	
教科書		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅲ				ナンバリング	2212
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。生理学Ⅰ、Ⅱ、解剖学Ⅰ、Ⅱと関連し、生理学実習、応用解剖学実習、高次脳機能障害学の基礎となる。							
授業の概要							
脳機能を始めとする神経機能と情報伝達のメカニズムについて、分子・細胞レベルから臓器に至るまで幅広く学習する。感覚受容、運動調節、自律神経系、内分泌、生殖・発生、脳の可塑性や高次機能の仕組みを生理学的観点から学び、リハビリテーションによる機能回復について理解する。							
到達目標							
神経細胞の活動を理解し、説明することができる。 神経細胞による情報伝達の仕組みを理解し、説明することができる。 感覚受容の仕組みを理解し、説明することができる。 中枢神経系による運動調節の仕組みを理解し、説明することができる。 自律神経・内分泌や生殖の仕組みを理解し、説明することができる。 その他の脳の働きを理解し、説明することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。 まとめの試験を2回行う。							
ICT活用							
Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経科学概論 神経系の成り立ちについて理解する。脳・脊髄の構造と機能について理解する。	教科書のp19-26を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第2回	神経の情報伝達機構 神経情報の伝達メカニズムについて理解する。 イオンチャネルと活動電位、シナプスの構造と機能、神経筋接合部、神経伝達物質について理解する。	事前配布資料や教科書のp7-18を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第3回	感覚の受容と脳における情報処理1 視覚・聴覚・平衡覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp93、98-102、104、105を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第4回	感覚の受容と脳における情報処理2 嗅覚、味覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp97、98、102、103を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第5回	感覚の受容と脳における情報処理3 体性感覚と内臓感覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp87-96を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第6回	脳と脊髄による運動制御1 運動野―皮質脊髄路による運動制御の仕組みを理解する。脊髄反射による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp34、57-62、79-86を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第7回	脳と脊髄による運動制御2 大脳基底核による運動制御の仕組みを理解する。小脳による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp36-44、52-56を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第8回	ゲスト講師(北海道大学医学研究科神谷温之教授)による特別講義 シナプスの可塑性、記憶と学習のメカニズムについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(30分)
担当教員			
第9回	まとめと試験1 第1-7回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1-7回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
第10回	視床下部と内分泌、自律神経1 視床下部による下垂体の内分泌制御、交感神経と副交感神経による各臓器の機能調節について理解する。	事前配布資料や教科書のp107-117、229-235を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第11回	視床下部と内分泌、自律神経2 松果体、副腎、甲状腺、副甲状腺、膵臓が分泌するホルモンの機能とその調節機構について理解する。	事前配布資料や教科書のp235-243を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第12回	生殖と発生 女性生殖器の構造と機能を理解する。男性生殖器の構造と機能を理解する。ヒトの発生と老化について理解する。	事前配布資料や教科書のp244-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第13回	神経発生と脳の可塑性 神経系発生のメカニズムについて理解する。 神経回路形成の仕組みを理解する。 脳の可塑性について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第14回	脳と行動、脳の高次機能 脳と行動の関係について理解する。摂食行動、動機づけ、情動、脳波と睡眠について理解する。脳の言語処理機能について理解する。	事前配布資料や教科書のp30-31、p322-325を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第15回	まとめと試験2 第10-14回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第10-14回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。	

その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 神経科学―脳の探求―、藤井聡監訳、西村書店 エッセンシャル神経科学、前田正信 監訳、丸善 カールソン神経科学テキスト、中村克樹監訳、丸善 カンデル神経科学、宮下保司 監訳、メディカルサイエンスインターナショナル もっとよくわかる！脳神経科学、工藤佳久著、羊土社		
履修条件・留意事項等		
解剖学や運動学との関連で理解を深めること。 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む) 授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。 また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。 上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション医学				ナンバリング	2314
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	未定						
授業の位置づけ							
・リハビリテーション学科理学療法学専攻のディプロマポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および作業療法学専攻のディプロマ「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係のある科目である。・「リハビリテーション概論」、「理学療法概論」、「作業療法概論」と関連し、今後の理学療法学専攻及び作業療法学専攻の専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
・リハビリテーション医学の実践であるリハビリテーション医療は障害を最小化し、残存能力を最大化するための治療と予防である。本講義ではリハビリテーション治療について、代表的な疾患を通して基本的な考え方を学ぶ。また、代表者を中心としてリハビリテーション医学とは何かについて学び、あるべき理学療法士像や作業療法士像について考察する。							
到達目標							
1. リハビリテーション医学における障害の捉え方を説明できる。 2. 代表的な疾患に関して、リハビリテーション医学の治療目的を説明できる。 3. リハビリテーション医学の中の理学療法や作業療法の役割を説明できる。							
授業の方法							
・授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームに載せるので、教科書と併せて確認すること。授業はパワーポイントを用いて講義形式ですすめる。授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。							
ICT活用							
google formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

病院施設において医師として勤務した経験を活かしてリハビリテーション医学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックを次回授業時に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション。 リハビリテーション医療の内容やチームアプローチについて学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	リハビリテーション医療を実施するための国際生活機能分類について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	代表的な運動器疾患の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について学ぶ。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	高齢者に対するリハビリテーション医療の現状について学ぶ。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	脳血管障害の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について、神経学的な視点から学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の臨床症状について理解し、理学療法および作業療法の介入目的とその方法について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	認知症について、その分類と臨床症状について学ぶ。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	内部疾患(呼吸器・循環器疾患)により発生する様々な障害について学ぶ。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業課題もしくは小テストによって総合的に判断する	
その他	0	なし	
教科書			

リハビリテーション医学 上月正博、高橋仁美編 メジカルビュー社

参考文献

必要に応じて資料を配布する

履修条件・留意事項等

授業へは積極的に参加し、不明な点は質問などで必ず解決すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学 I				ナンバリング	2310
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「精神医学Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
精神疾患患者のリハビリテーション計画を立案する上で必要となる、主要な精神科疾患についての知識を学ぶ。精神障害の分類についての考え方、精神科疾患の概念、疫学的事項、症状、診断、経過、成因と治療の概要について学習する。							
到達目標							
1. 精神医学に関する基本的な知識を理解し、説明できる。 2. 理学療法士としてリハビリテーションを実践していくときに、精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。 3. 国家試験「精神医学」範囲の出題を確実に得点できるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じGoogle Classroomでオンライン授業を行う。 第1回から第14回まで、Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを行う。							
ICT活用							
Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「精神医学とは」 精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について学ぶ。また精神医学の歴史について学ぶ。	教科書のpp.1～10を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	「精神障害の成因と分類」 「精神機能の障害と精神症状」① 精神障害の3つの成因とその概念、精神障害の分類について学ぶ。意識とその障害、注意と見当識の障害、知能とその障害、性格とその障害について学ぶ。	教科書のpp.10～22を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	「精神機能の障害と精神症状」② 記憶とその障害、感情とその障害、欲動および意志とその障害、自我意識とその障害について学ぶ。	教科書のpp.22～28を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	「精神機能の障害と精神症状」③ 知覚とその障害、思考とその障害、病識とその障害、主な精神状態像について学ぶ。	教科書のpp.28～38を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	「精神機能の障害と精神症状」④ 神経心理学的症状について学ぶ。	教科書のpp.38～45を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	「精神障害の診断と評価」① 精神障害の診断や評価の基本となる精神医学的診察法について学ぶ。脳CTやMRI、脳波などの身体的検査法の概略について学ぶ。	教科書のpp.46～53を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	「精神障害の診断と評価」② 心理検査法などの概要、精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について学ぶ。	教科書のpp.53～67を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	「脳器質性精神障害」① 脳器質性精神障害の経過による症状の特徴、原因となる主な疾患、主な老年期の認知症疾患の特徴やリハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.68～81を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	「脳器質性精神障害」② 大脳基底核の変性疾患、脳の感染症、頭部外傷と外傷性脳損傷、中毒、脳腫瘍、脱髄性疾患、代謝障害、正常圧水頭症などについて学ぶ。	教科書のpp.81～93を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	「症状性精神障害」 症状性精神障害の概念と症状の特徴、基礎となる主な疾患、治療および経過について学ぶ。	教科書のpp.94～99を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	「精神作用物質による精神および行動の障害」 アルコールや依存性薬物による精神的・社会的障害を理解する。	教科書のpp.100～114を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	「てんかん」 てんかんの概念、原因別の分類、および発作症状や精神症状の特徴、経過と予後、治療、ケアとリハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.115～126を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	「統合失調症およびその関連障害」 統合失調症がどのような病気か、病型や診断基準、経過と予後、急性期・慢性期における精神症状の特徴、社会生活における制限の特徴、治療法とリハビリテーションの基本について理解する。	教科書のpp.127～148を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	「気分(感情)障害」 気分(感情)障害の概念および病型の分類について学ぶ。 うつ病と躁うつ病について、症状や経過の特徴、誘因・病因と発症の機制、治療と援助、リハビリテーションのあり方などに関して学ぶ。	教科書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	まとめと修了テスト	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況、および最終回の修了テスト。詳細は授業中に伝える。	

その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
参考文献		
標準精神医学第8版／尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 編集／医学書院		
履修条件・留意事項等		
特記事項なし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	2300
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。 「微生物・免疫学」「人間発達学」「医学概論」「解剖学I」「解剖学II」「生理学I」「生理学II」「基礎解剖学実習」と関連し、「内科学」「神経内科学」「整形外科学」「小児科学」「老年医学」「救急医学」の基礎となる。							
授業の概要							
病気の原因やその発症のメカニズムについて、細胞傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、炎症と感染症、免疫異常とアレルギー、腫瘍など、原因や機序別に分けて学習する。また、各臓器の代表的な疾患についても学ぶ。							
到達目標							
1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。 2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。 3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。 4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じてオンライン授業を実施する。							
ICT活用							
Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論1. 病理学とは 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。 総論2. 細胞傷害 細胞傷害の種類やその機序を学ぶ。また傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	教科書のpp.14～52を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	総論3. 先天異常 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形の種類、染色体異常とその代表的疾患を学ぶ。	教科書のpp.53～64を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	総論4. 循環障害 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	教科書のpp.65～75を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	総論5. 炎症 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。	教科書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	総論6. 免疫異常とアレルギー 免疫と免疫系の細胞、アレルギー反応、免疫不全症や自己免疫疾患などについて学ぶ。	教科書のpp.88~102を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	総論7. 感染症 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、宿主の反応などについて学ぶ。	教科書のpp.103~117を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	総論8. 腫瘍 腫瘍の概念や分類、その形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断などについて学ぶ。	教科書のpp.118~134を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	各論1. 「心臓の疾患」「脈管系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.136~166を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	各論2. 「造血系・リンパ系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.167~185を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	各論3. 「呼吸器系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.186~212を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	各論4. 「消化管の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.213～237を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	各論5. 「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.238～254を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	各論6. 「泌尿器系の疾患」「男性生殖器系の疾患」「女性生殖器系と乳腺の疾患」「内分泌系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.255～323を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	各論7. 「筋・骨格系の疾患」「皮膚の疾患」「脳・神経系の疾患」「眼と耳の疾患」「全身性疾患」について学ぶ。	教科書のpp.324～398を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	まとめと修了テスト	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト、第15回の修了テストなど。詳細は授業中に伝える。	

その他	0	なし
教科書		
クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版		
参考文献		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版／梶原博毅監修／医学書院		
履修条件・留意事項等		
特記事項なし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(1組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
1年次前期に学習した人体の構造と各器官の連関を人体模型を通して理解を深める。特に、骨の構造と筋の起始・停止、腕神経叢・腰仙神経叢から出る筋の支配神経について深く理解する。							
到達目標							
1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。							
授業の方法							
骨学(関節と靱帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。 筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。 札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。 理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。 フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。							
ICT活用							
Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については彎曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。(池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		

第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。 (池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと。 (30分)	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと。	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション (池野)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		

第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(池野)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。②では特に深層筋の見学を中心に学習する。(松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	学したご遺体の考察を書いてお くこと
担当教員	池野 秀則、松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト10% 口頭試問(骨学・筋学)各10% 筆記試験70%	
その他	0	なし	
教科書			
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂			
参考文献			
運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社			
履修条件・留意事項等			

実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(2組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
1年次前期に学習した人体の構造と各器官の連関を人体模型を通して理解を深める。特に、骨の構造と筋の起始・停止、腕神経叢・腰仙神経叢から出る筋の支配神経について深く理解する。							
到達目標							
1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。							
授業の方法							
骨学(関節と靱帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。 筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。 札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。 理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。 フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。							
ICT活用							
Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。
松田は総合病院・神経疾患病院にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については彎曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員			
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。(池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員			

第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。 (池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員			
第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション (池野)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員			

第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。 ①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(池野)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員			
第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。 ②では特に深層筋の見学を中心に学習する。 (松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト10%、口頭試問(骨学・筋学)各10%、筆記試験70%	
その他	0	なし	
教科書			
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂			
参考文献			
運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社			
履修条件・留意事項等			

実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅰ				ナンバリング	3442
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を修得する。理学療法士としての専門性を高める専門科目として「理学療法評価学Ⅱ」、「理学療法評価学実習Ⅰ、Ⅱ」と関連し、「臨床実習」の基礎となる重要な科目で、理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける。							
授業の概要							
理学療法を実施する上で展開される一連の過程について、国際障害分類 (ICIDH)および国際生活機能分類(ICF) との関連を含めて理解し、理学療法評価の目的と意義について総論的に学習する。その後、各論として医療情報収集、問診、また理学療法評価基本技術のうち主として筋骨格系を対象とした項目について理論と概要を理解し、各項目に必要な基礎知識および検査の実際と留意点について学習する。							
到達目標							
1. 理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる。 2. 身体評価(physical assessment)全般の基本原則を理解できる。 3. 評価に必要な検査・測定の意義と正しい方法を理解できる。 4. 疾患を持つ患者の全体像を全人的な視点で捉えることの必要性を理解できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料物を用いて講義形式ですすめる。 理解度を確保するため小テストを実施する。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、柴田は理学療法士として、これまでの臨床・研究経験を基に授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容や小テスト課題に対し、その都度、解説や補足説明を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法評価総論 理学療法評価の概念について学習する。	教科書1の「総論、第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	理学療法評価総論 情報収集、医療面接について学習する。	教科書1の「総論、各論第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	検査・測定 バイタルチェックについて学習する。	教科書1の「各論第2章 バイタルサイン」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	検査・測定 形態計測について学習する。	教科書1の「各論第3章 形態測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	検査・測定 関節可動域の概論と特徴について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	検査・測定 関節可動域測定(上肢・下肢)について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第7回	検査・測定 筋力の概論と特徴について学習する。 筋力(上肢・下肢・体幹)について学習する。	教科書1の「各論第5章 筋力検査」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	まとめと試験 理学療法評価のまとめと復習を含めた試験を行う。	これまで学んだことに対し、内容を深めるため復習すること 必要時間:90分	講義内容の復習をし理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと試験(90%) 授業内の課題、小テスト、授業への参加態度等(10%)	
その他	0	なし	
教科書			

1. 理学療法評価学: 松澤正他／金原出版
2. 新・徒手筋力検査法: Hislop, Montgomery 他／協同医書出版

参考文献

1. ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭他/南山堂
2. 図解理学療法検査・測定ガイド: 奈良勲他/文光堂

履修条件・留意事項等

復習のための小テストを行う

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅰ(見学実習)				ナンバリング	3701
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」と特に関係があり、初年次教育の一環として、他の職種との協力関係を築く能力や、理学療法対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動する能力を身につけるための科目である。理学療法場面の見学の中から、理学療法の業務内容、役割、対象者について理解を深める。前期に学習した「理学療法概論」「リハビリテーション概論」「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」と関連し、後期の「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅰ」「理学療法評価学Ⅰ」「基礎解剖学実習」「生理学実習」など専門基礎科目、専門科目、2年次の「臨床実習Ⅲ」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法の実務的な視点で初めて病院・施設あるいは患者に接する機会であり、早期体験としての意義を持っている。臨床実習指導者をはじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動についての初歩的な理解を得ることに主眼をおいている。さらに患者を通して障害および障害者に理解を深め、リハビリテーションおよび理学療法が臨床的に果たす役割を認識することを目的とする。							
到達目標							
・理学療法対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚ある言動をとることができる							
授業の方法							
・事前オリエンテーション、実習前講義を通して実習への準備を行う ・学生それぞれが、学外実習施設(病院、施設など)にて理学療法場面を見学する ・毎日、ポートフォリオに見学した内容と自己学習(不明なことは教科書等を使用して調べる)、感想等を記載して、実習指導者に提出する ・チェックリストを用いて学習段階を確認する ・サマリーシート(報告書)を作成し、大学に提出する ・サマリーシートを使用してアドバイザー教員、学生へ実習成果を報告する							
ICT活用							
・実習前オリエンテーション、講義は状況に応じてオンライン授業で行う ・必要に応じてスライドに音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし学生が活用できるようにする							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

実習報告会の中での学生からの質問、アドバイザー教員からの指導、アドバイスとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーション ・実習の目的、注意事項の説明 ・実習の歩み、ポートフォリオの説明 ・実習の目標設定 ・学生紹介書の作成 ・服装髪型チェック ・実習施設への電話連絡の説明	シラバスで実習日程、実習内容について確認しておくこと。 臨床実習チェックリストの第1章、第2章を読んでおくこと(120分)	配付資料を見直すこと(30分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第2回	実習前講義および実習前試験 ・医療人としてのマナー講座 ・身体部位、姿勢の名称 ・専門用語、装具の説明 ・デイリーノート、チェックリスト、サマリーシートの説明 ・実習に関する理解度確認のテスト	理学療法評価学の教科書、臨床実習チェックリスト、配付資料を見直し、持参すること(60分)	配付資料を見直すこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第3回	臨床実習Ⅰ:2023年9月4日(月)～8日(金)(実習施設によっては9日土曜日までの実習、日程に変更の可能性あり) 1.学生は実習指導者または他の理学療法士と一緒に行動することを基本とし、理学療法業務の「見学」または「協同参加」によって理学療法について学習する 2.実習オリエンテーション(施設見学、施設概要の説明、実習全体の流れ、実習中の注意点、実習生自身が立てた「実習目標」の共有など)を実施する 3.対象者や家族とのコミュニケーションの取り方、接し方を学習する 4.「見学」または「協同参加」した対象者の疾患・障害の特	実習施設へ持参物の確認、配付資料、実習の手引きの熟読、チェックリスト、デイリーノートを確認すること(90分)	見学した内容をデイリーノートに記載し、自己学習資料と合わせてポートフォリオにファイリングすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第4回	実習報告会の実施(日程未定) ・実習終了後、報告会にむけて、見学した内容について図書館等で調べた上で実習サマリーシートを作成・提出し、アドバイザーグループごとに報告会を行う ・実習後の提出物:ポートフォリオ、チェックシート、臨床実習Ⅰサマリーシート、実習の歩み、お礼状 ・実習報告会終了後、サマリーシートを修正して完成させ全員再提出する	実習報告会では4分以内で発表できるように、要点をまとめて、練習すること。 報告会での提出物を確認すること(90分)	他学生の発表、サマリーシートを見直したり、質問、アドバイスを参考にサマリーシートを修正し再提出する(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	学外実習成績(30%):実習指導報告書	

その他	70	学内実習成績(70%):実習前オリエンテーション・実習前講義の出席状況、実習前試験・ポートフォリオ・実習報告会の成績
教科書		
①PT臨床実習チェックリスト, 青木主税 編集, メディカルビュー ②理学療法学事典, 奈良勲 監修, 医学書院 ③理学療法評価学, 松澤正 著, 金原出版		
参考文献		
必要に応じて資料を配付する		
履修条件・留意事項等		
オリエンテーション、実習前試験、実習、実習報告会の遅刻・欠席は原則認めません		
備考欄		